

## かみいち総合病院改革プラン評価表（経営効率化指標）

### <評価委員>

- 委員長：遠藤俊郎（富山大学附属病院病院長）  
 副委員長：川淵孝一（東京医科歯科大学大学院教授）  
 委員：齊藤忠義（上市町区長協議会会長）、利田 忠（上市町副町長）、重田浩一（かみいち総合病院院長）

### <評価・指摘事項>

- 1 厳しい医療・病院の環境の中で一定の努力が見える結果となっている。
- 2 平成22年度数値目標を達成するためには、さらなる効率化を目指して事業規模や組織形態の見直しを行うかあるいは、目標そのものを現実的な数値目標やスキームに見直しを行い、経常収支、医業収支の均衡を図るようシミュレーション(病床利用率、平均在院日数、診療単価)を行うことが大事である。
- 3 行政のサポートや住民とのコミュニケーションがもっと必要である。
- 4 医師確保にさらに努力すること。
- 5 平成22年3月に郡医師会と開放病床に関し覚書を交わし病診連携(患者紹介、逆紹介等)の礎ができたがさらに進展するよう努めること。

## 1. 財務に係る数値目標

| 主な数値目標             | 平成21年度  |         |      | 平成22年度  |     | 取組内容                                                        |
|--------------------|---------|---------|------|---------|-----|-------------------------------------------------------------|
|                    | 計画値     | 実績値     | 達成状況 | 計画値     | 実績値 |                                                             |
| 経常収支比率             | 92.9    | 93.3    | A    | 98.7    |     | 1 地方交付税等の財政措置の拡充に伴い一般会計からの繰入金が増額され経常収支比率が改善した。              |
| 職員給与比率             | 60.2    | 61.2    | B    | 52.9    |     |                                                             |
| 病床利用率(一般)          | 79.9    | 77      | B    | 83.6    |     |                                                             |
| 平均在院日数(一般)         | 18      | 17.2    | A    | 18      |     | 2 医師不足等により医業収支比率の改善が進まず、目標数値に達成しなかった。                       |
| 医業収支比率             | 88.7    | 88.6    | B    | 94.8    |     |                                                             |
| 不良債務比率             | 0       | 0       | A    | 0       |     | 3 医業収益を確保するため、職員から提案の収入増加対策を22年2月から実施したが、診療単価(入院)の増に至らなかった。 |
| 患者1人1日当たり診療収入(入院)  | 26,247  | 26,148  | B    | 28,765  |     |                                                             |
| 患者1人1日当たり診療収入(外来)  | 8,769   | 8,654   | B    | 9,824   |     |                                                             |
| 患者1人1日当たり診療収入(医師)  | 341,102 | 311,875 | B    | 342,893 |     |                                                             |
| 患者1人1日当たり診療収入(看護師) | 61,154  | 55,500  | B    | 69,671  |     |                                                             |
| 患者1人1日当たり薬品費       | 2,224   | 2,327   | A    | 3,002   |     |                                                             |

## 2. 医療機能に係る数値目標

| 主な数値目標           | 平成21年度 |       |      | 平成22年度 |     | 取組内容                           |
|------------------|--------|-------|------|--------|-----|--------------------------------|
|                  | 計画値    | 実績値   | 達成状況 | 計画値    | 実績値 |                                |
| 1日平均患者数(入院)      | 181    | 171.8 | B    | 187    |     | 医師不足により、患者数が入院、外来とも前年度よりも減少した。 |
| 1日平均患者数(外来)      | 501    | 472.8 | B    | 517.5  |     |                                |
| 入院患者1000人当たり手術件数 | 12     | 12    | A    | 14     |     |                                |
| 紹介率(%)           | 16.7   | 16.5  | B    | 23.3   |     |                                |

(注) 1. 達成状況の欄は、A：目標以上 B：一定の実績 C：実績なし により自己評価した上で評価委員会にて評価されたもの

改革プランの達成を目指して平成21年度の実績について6月25日に評価委員会を開催し、審議上、評価をいただいたものです。今後、地域の医師会との連携をさらに深めつつ町民の皆様の安心の医療・信頼の医療に最善を尽くしてまいります。  
 院長 重田 浩一

## ●収入増加・確保対策

### <取組(計画)事項>

- 1 医師の増員
- 2 亜急性期病床の増床(8床→12床)(平成21年2月から)
- 3 精神科作業療法(平成20年9月から)
- 4 フィルムレス化に伴う電子画像管理加算(平成21年4月から)
- 5 院外処方箋の発行抑制(発行率 68%→50%)
- 6 診療時間の拡大・土曜(午前)診療(内科等)・夕方(午後5時~7時)診療(小児科)
- 7 医師事務作業補助体制加算の取得、施設基準(100:1)を満たし、平成21年4月から加算取得する
- 8 臨床試験(治験)の実施
- 9 健診・ドック利用者の拡大(土曜ドック、女性ドック)
- 10 領収書裏面広告(22年度から)及びホームページのバナー広告(平成21年10月)の開設
- 11 未収金の徴収強化—徴収専門員を配置し早期回収、訪問徴収の強化、法的措置(支払督促等)

### <実績>

- ・亜急性期病床の増床を達成。平成20年9月から病床数を10床、平成21年2月から12床と逐次増床。(増収額 4,189千円)
- ・平成20年9月から、専従の作業療法士1名を配置し、精神科作業療法の実施。(増収額 4,253千円)
- ・平成21年4月からレントゲンの画像を電子化し、同管理加算を算定。(増収額 8,648千円)
- ・平成21年5月から徴収専門員1名の配置を行った。(増収額 407千円)
- ・平成21年10月から医師事務作業補助者4名を配置し、同11月から同補助体制加算(50:1)を取得。(増収額 1,412千円)
- ・平日のドック利用者の増 H20(638人)→H21(733人)(増収額 4,730千円)

## ●経費削減・抑制対策

### <取組(計画)事項>

- 1 医事委託業務の拡大による正規職員の削減
- 2 時間外勤務手当の抑制(20年度当初予算比毎年5%減)
- 3 医療材料費の抑制
- 4 業務委託の内容及び金額の見直し(施設管理及び外来受付など)
- 5 医師等の増員に伴う経費の見直し(増額分)

### <実績>

- ・医事業務の専門性を高めるなど業務の効率化を図るため専門業者から1名派遣を受けたが、正規職員の削減は未実施となった。なお、計画外であるが、平成21年4月より総務課職員は、6名⇒5名とした。
- ・診療部を除く、各部局における業務の効率化や時間外勤務を削減する取組で一定の成果(決算ベース)が得られた。(H20決算 26,282千円→H21決算 22,955千円)
- ・薬品については、自治体病院協議会の医薬品値引調査結果等の情報をもとに、価格交渉(年2回)を粘り強く進め、目標を上回る10.7%を確保した。(値引額薬品13,310千円)
- ・診療材料は年度当初をはじめ随時値引交渉を行っているほか、21年12月に平均3%超の値引き交渉を進めたが、22年1月から主要取引業者から平均2%の値引きに留まった。(値引額 4,148千円)
- ・平成21年4月からレントゲンの画像を電子化し、フィルムレス化(CR)した。(削減額 4,395千円)
- ・施設、設備総合管理業務について計画的効率的な保守点検を行うため、3年分の業務内容を点検精査した。単年度契約であるが大幅な経費の削減を図った。(H20決算 74,775千円→H21決算 68,565千円)
- ・外来診療受付の見直しや、会計業務の中央化(分散→中央)を、平成21年度中の実施を目標に準備を進めた。同システムの改修や内部調整に手間取り、平成22年4月からの運用となった。(H20決算 28,564千円→H21決算 24,570千円)